

〈妖精と出逢ったあの夏〉を僕は忘れない…



ALL THE LITTLE ANIMALS

コーンウォールの森へ



「ラストエンペラー」「戦場のメリークリスマス」のプロデューサー ジェレミー・トーマスの初監督作品

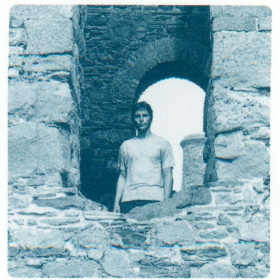
犬のフェアリーテイル

98年トロント国際映画祭正式出品作品 / 98年ロンドン国際映画祭正式出品作品 / 99年東京国際映画祭特別招待作品

レコーダッド ピカチャーズカンパニー/ブリティッシュ スクリーンレポート I&M エンタテインメント/ISLE OF MAN FILM COMMISSION BBCフィルム/エンタテインメント フィルム共同配給
ALL THE LITTLE ANIMALS ジョージ・ハート クリスチャン・ベネル デニエル・ベンヤミン
音楽 リチャード・ハートリー 撮影監督 マイク・モリー BSC 編集 ジョン・ゼクター・スミス A.C.E. 美術 アンソニー・サンダーズ
衣裳 ロイ・スミス ジョーンズ・ワード アクション・プロデューサー ヘラクレス・バルビニユ 製作総指揮 クリス・オーティ 原作 ウォーナー・バニントン
共同プロデューサー デニス・オズガ 脚本 エズキート・トーマス 監督 ジェレミー・トーマス 配給 松竹株式会社 <http://www.shochiku.co.jp>

「ラストエンペラー」「戦場のメリークリスマス」の名プロデューサー
ジェレミー・トーマス、待望の初監督作品! 今最も旬なクリスチャン・ベール主演!

過去20年以上にわたり、国際舞台の第一線で活躍を続けるイギリス屈指の名プロデューサー、ジェレミー・トーマスがついに念願の監督デビューを果たした。「コーンウォールの森へ」は夭折の作家ウォーカー・ハミルトンが1968年に発表した同名の長編処女小説。この小説に惚れ込み、映画化を熱望していたトーマスにとっては、まさに夢の実現と呼べる作品である。また、無垢な青年ポビーを演じるのはスピルバーグに見出され「太陽の帝国」に主演し、「ベルベット・ゴールドマイン」で演技派スターへの転身を成功させたクリスチャン・ベール。監督のトーマスが「最初にして最後のチョイスだった」と語るだけあってキャラクターの変貌ぶりを細やかに物語る演技は素晴らしいの一語。ポビーの心の師となるミスター・サマーズには「エレファント・マン」で名声を確立したジョン・ハートが演じている。ポビーの人生に脅威を与える継父役には「エビータ」などのヒットミュージカルの舞台上で知られるダニエル・ベンザリ。エキセントリックで複雑なキャラクターに類稀なる個性を發揮するふたりの演技対決も大きな見どころだ。



無垢な青年ポビーが出会ったのは<森の妖精>だった…

子供のころの交通事故と薬物療法が原因で、脳に障害を負ったポビーにある日突然、不幸が襲いかかる。この世の唯一の守護者である愛する母がこの世を去ったのだ。冷酷な継父の「施設に送る」という言葉を聞いたポビーは家出を決意する。ヒッチハイクを重ねながら、ようやく一度夢に見たことのある憧れの地コーンウォールにたどり着いたポビーは、まるで<森の妖精>のようなミスター・サマーズ(夏)に出会う。彼は、車にひかれた動物を埋葬することを「仕事」にしている。サマーズとの生活を通して、次第に自分自身の命の価値に目覚めていくポビー。だが、彼の人生には、再び継父デウインター(冬)の影が忍び寄ってくる…

妖精や人魚の伝説が息づく英国人の聖地<コーンウォール>とは?

物語の舞台となるコーンウォールはイギリス南西部に位置する景勝の地。ケルト民族が築いた独特の文化と伝統、そして妖精や人魚の伝説が息づくこの地方は、荒々しい海岸線に彩られたミステリアスな自然の宝庫として知られている。神秘性と包み込むような優しさをたたえた寓話的な映像を表現したかった監督のトーマスはコーンウォールの黄金色の草原や妖精の存在を実感させる森の光景で見事に<大人のフェアリーテイル>を描きだした。



大人のための、フェアリーテイル

1998年トロント国際映画祭正式出品作品
1998年ロンドン国際映画祭正式出品作品
1999年東京国際映画祭特別招待作品

1998年/イギリス映画/1時間53分/シネマスコープ
配給/松竹株式会社

◆スタッフ◆
製作・監督:ジェレミー・トーマス 脚本:エスキュー・トーマス 撮影:マイク・モロイ
原作:ウォーカー・ハミルトン 音楽:リチャード・ハートリー

◆キャスト◆
クリスチャン・ベール
ジョン・ハート
ダニエル・ベンザリ
シェーン・パークス

<http://www.shochiku.co.jp>



9月23日(土) 京阪神独占!ロードショー

●前売鑑賞券(¥1,500)好評発売中!!
●初日(9/23)先着30名様にB2ポスター・プレゼント!

地下鉄「動物園前」5出口・フェスティバルゲート7F

動物園前 シネフェスタ4

06(6647)7188